

# 平成31年度 小平市立小平第十一小学校 学校評価計画表

**学校教育目標** 気品と気概のある子  
 ○かしこい子 自ら学び自ら考える子  
 ○つよい子 めあてを決めて行動しやりぬく子  
 ○やさしい子 相手を思いやり協力し合う子

## 目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 児童にとって、安全で楽しい学習・生活の場であること、いじめのない、児童がよりよく成長する、ぬくもりのある学校を目指す。
- 【目指す児童・生徒像】 主体的により良く問題を解決する能力、逞しく生きるための健康と体力をもち、思いやる心や感動する心などの豊かな人間性をもつ児童の育成を目指す。
- 【目指す教師像】 全ての教職員が全ての児童の担任であるという自覚をもち、児童一人一人を大切に、授業力・指導力の向上に努め、資質を高める教師を目指す。

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

経営方針の実現に向け、「こころ」「体」「いのち」に関する学習内容を総点検し、6年間で学べべき「いのちプロジェクト」を作成し系統的に指導を行い、児童の生きていこうとする意欲や願い、やさしさをよりよく育てることを目指して教育活動を進めた。88%の保護者が児童の「いのち」の捉え方が変化したとアンケートに回答するなど、成果は着実に上がってきていると考えられる。また、関係者評価でも肯定的な評価をいただいたとともに、教職員、各自が「いのちの学習」に取り組み、授業力を向上させることもできた。しかし、校内研究の教員の振り返りによると、「いのちの学習(いのちプロジェクト)」のプログラム化が一年間では十分にできていないとの課題が出され、更に学校評価の保護者アンケートでは、いじめ対策に関する否定的な評価が微増(6%→8%)した。こうしたことから、児童にいのちの大切さを実感させ、6年間を通して自尊感情を育み、児童個々の自立心を養成していくために今年度も全学級で「いのちの学習」を実施し、また新学習指導要領移行期間である今年度は、小平市教育振興基本計画に基づき「学校は子どものためにある」という原点に立ち返り、課題解決にあたる。また、今年度から本校はコミュニティ・スクールとなるため、地域・家庭とともにある本校の特色をより一層生かして、学校の役割を見つめ直し、教職員、保護者、地域の方々一人一人が参画し「地域の学校」としての基盤をつくる一年としていく。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)	成果目標(評価基準)
学力向上	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	学習規律を徹底させる。	①授業の開始時刻・終了時刻を守る。 ②授業の始めと終わりのあいさつを確実に行う。 ③「はい」「立つ」「です」のルールを徹底する。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが90%以上 3 児童へのアンケート AとBが85%～89% 2 児童へのアンケート AとBが80%～84% 1 児童へのアンケート AとBが80%未満
		基礎・基本の定着を図る。	①東京ベーシックドリル診断シートを毎学期行う。 ②朝学習や家庭学習を活用し繰り返し取り組む。 ③年間6回(研究授業4回)以上、教員同士が互いに授業を見合う機会をもち、授業力を高める。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 診断シートの正当率90%以上(2～6年) 3 診断シートの正当率80%以上90%未満(2～6年) 2 診断シートの正当率70%以上80%未満(2～6年) 1 診断シートの正当率70%未満(2～6年)
	思いやりのある児童の育成を図る。	自ら進んであいさつができる児童を育てる。	①年3回のあいさつ運動に取り組む。 ②毎朝、教室や玄関で児童を迎え、教職員からすすんで何度も笑顔であいさつをする。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 保護者へのアンケート AとBが80%以上 3 保護者へのアンケート AとBが70～79% 2 保護者へのアンケート AとBが60～69% 1 保護者へのアンケート AとBが60%未満
		いじめゼロの学校をつくる。	①いじめ見逃しゼロに向けて児童へのアンケート調査を年3回以上実施する。 ②週1回、生活指導連絡会を開催する。 ③月1回、いじめ対策委員会を開催する。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満
体力の向上	健やかな体を育成する。	児童の統一体力テストの結果を自校の前年度記録の数値を3%向上させる。	①体力向上旬間を設け、運動の日常化を目指す。 ②なわとびや長縄、持久走などに関する体力向上旬間を年間10日以上、設け、運動の日常化を目指す。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満
	食育を推進し、食生活の改善を図り、給食指導を充実させる。	①学期1回、給食OJTを実施し、指導の方向性を統一化する。 ②全ての給食実施日において「給食チェックシート」を全学級で実施する。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満	
① 特色ある学校づくり	地域と連携した教育活動の充実を図る。	コミュニティ・スクール発足に関連した取組を推進し、軌道に乗せる。	コミュニティ・スクールの発足に伴い組織的、計画的に運営し、効果的に学校支援ボランティアを活用できるように月に1回、学校運営や必要な支援に関する協議する。	4 学年の実施日の年間合計10回 3 学年の実施日の年間合計9回 2 学年の実施日の年間合計8回 1 学年の実施日の年間合計7回以下	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満
		六中学区における小・中連携教育に関する取組を効果的に実践する。	学力向上、健全育成、キャリア教育の3分科会に分かれて年3回以上協議し、具体的な取組を各校で実践する。	4 年4回以上 3 年3回以上 2 年2回以上 1 年1回未満	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満
業務改善・働き方改革	時間対効果を意識し校務改善を図り、ライフ・ワークバランスに対する意識改革を推進する。	勤務時間の管理を徹底する。	①週当たりの在籍時間が60時間を超えない。 ②週一回(月曜日)ノー会議デーの実施をする。	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満	4 教員の90%以上が達成 3 教員の80～89%が達成 2 教員の70～79%が達成 1 教員の達成が70%未満
		校務改善について個々の教職員の具体的な取組を明確化する。	情報共有方法の工夫、業務手順の見直し、様式の見直しなどについて自己申告書に具体的な取組を示し、実践する。	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満	4 教員の90%以上が達成 3 教員の80～89%が達成 2 教員の70～79%が達成 1 教員の達成が70%未満